

平成30年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

東北ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて11頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1 登録基幹技能者制度に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事において生産性の向上を図り、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保することが求められている。
2. 現場で直接生産活動に従事する技能労働者、とりわけその中核をなす職長等の果たす役割が重要となっている。
3. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた者である。
4. 登録基幹技能者は、いわゆる普通の職人として、元請の計画・管理業務に参画することが期待されている。

問題2 技能者の呼称の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 補助者として作業する見習者も含め、上司の直接的指揮・指導の下、安全に作業できるものを初級技能者という。
2. 業種に応じた資格を有し、上司の指導に基づき部下を指示し、自らも技能を発揮し、安全に直接的施工にあたるものを職長という。
3. 業種に応じた資格を有し、優れた直接的施工能力を持ち、担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理と作業の指揮・指導を行う、基幹技能者になり得る資格を有するものを上級技能者という。
4. 現場をまとめることはもとより、生産性の向上、品質、コスト、安全の確保など多岐にわたり役割を果たす上級職長を登録基幹技能者という。

問題3 登録基幹技能者の役割に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等
2. 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成
3. 設計者に対する施工に係る指示、指導
4. 前工程・後工程に配慮した他の職長との連絡・調整

問題4 登録基幹技能者としての倫理・法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 倫理とは、「人倫のみち。実際道德の規範となる 原理。道德。」である。
2. 人倫とは、「人として誤った道へ進むこと。」である。
3. 道德とは、「人のふみ行うべき道。」である。
4. 登録基幹技能者の倫理とは、「人として守り行うべき道であり、行為の善悪、正邪の判断において普遍的な基準となるもの。」である。

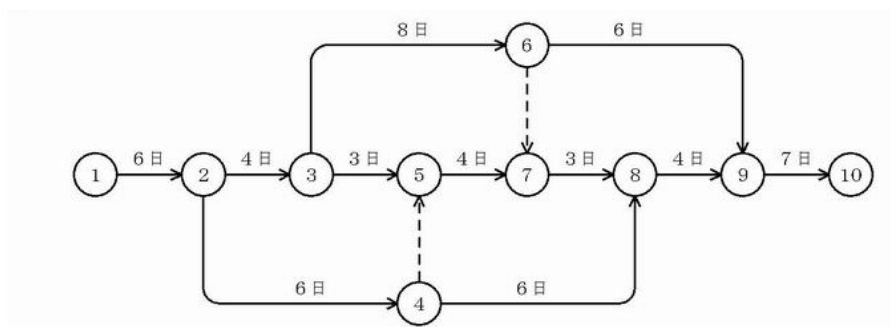
問題5 人として守り行うべき道であり、行為の善悪、正邪の判断において普遍的な基準となる「倫理」に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートのスランプが小さく打設しにくいとため、作業員から柔らかくするように要求されたのでコンクリートに加水させた。
2. 自身の経験からして明らかにセメント量が少ないので改善させた。
3. スラブにコンクリートを打設しようとしているが、自身の経験からして明らかにサポートの数が少ないので支保工の計算をし直した。
4. 足場を組み立てたが適切な転倒防止措置がとられていないので適切な措置を講じた。

問題6 品確法の改正で目的及び基本理念に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 現在及び将来の公共工事の品質確保
2. 施工技術の維持向上
3. 公共工事の品質確保の担い手の早急な確保・育成
4. 災害対策を含む地域維持の担い手確保への配慮

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. クリティカルパスは、1→2→4→5→7→8→9→10である。
2. この現場の工期は、32日である。
3. 3→5の作業の最早開始時刻は10日である。
4. 作業④→⑤の点矢線は、ダミーであり作業日数は0である。

問題8 建設業法における「元請負人が、元請負人と下請負人の責任および費用負担を明確にしないままやり直し工事を下請負人に行わせ、その費用を一方的に下請負人に負担させた場合」の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. やり直し工事を下請負人に依頼する場合は、やり直し工事が下請負人の責めに帰すべき場合を除き、その費用は元請負人が負担することが必要である。
2. 下請負人の責めに帰さないやり直し工事を下請負人に依頼する場合は、契約変更の必要がない。
3. 下請負人の一方的な費用負担は、建設業法に違反するおそれがある。
4. 下請負人の責めに帰すべき理由がある場合とは、下請負人の施工が契約書面に明示された内容と異なる場合または下請負人の施工に瑕疵等がある場合のことである。

問題9 労働安全衛生法における作業主任者の必要な業務に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 足場の組立等の作業
2. 屋内等での有機溶剤製造取扱い作業
3. 左官のセメントモルタル等取扱い作業
4. 型枠支保工の組立てまたは解体作業

問題 10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BSとは、グループのメンバーが、ある問題について自由にアイデアを出し合うことである
2. BSでは、上司の意見を聞いてそれに従うこと、あるいは他人の意見に上司のアイデアを加えて新しい意見としてまとめることが良くある
3. BSでカード化された多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整序して問題解決の道筋を明らかにしていくために特性要因図が用いられる
4. BSを行う際には、「質より量」が原則であり、できるだけ多くのアイデアを出すことを優先させる


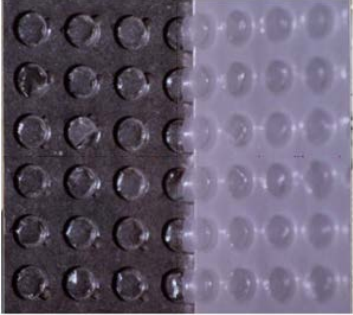
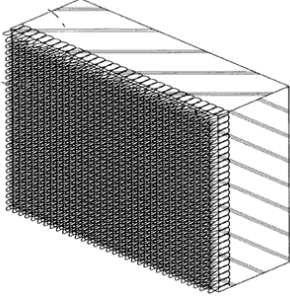

問題 11 JIS A 6909(建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装厚塗材Gとは、内装せつこう系厚付け仕上塗材のことである。
2. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材のことである。
3. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。

問題 12 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セルフレベリングとは、流しこむだけで平坦になる性質をいう。
2. シーリング材料はひび割れや隙間を充填する詰め物の材料をいう。
3. グラウトとは、ひび割部にセメントペースト等の結合材を注入することをいう。
4. スラリーとは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にあるものをいう。

問題 13 コンクリート表面の処理後の表面状態と処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1.	<p>高圧水洗浄の例（吐出圧 50N/mm²）である。</p>	
2.	<p>専用シートによる凹凸処理</p>	
3.	<p>専用シートによる起毛処理</p>	
4.	<p>カップサンダー掛け</p>	

問題 14 左官下地での条件に関して、最も不適当なものはどれか。

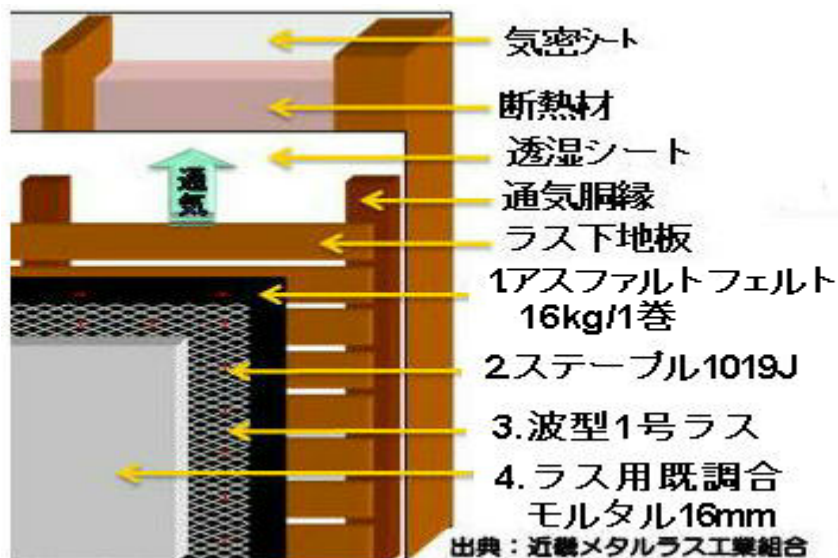
1. 左官の下地は、仕上げ材料と有効な付着強度が得られるものであること。
2. 左官の下地は、仕上げ材料と有害な化学反応を生じないこと。
3. 左官の下地は、仕上げ材料よりも強度・剛性が小さいこと。
4. 左官の下地は、仕上げ材料の施工に適した平面状態、吸水性を有すること。

問題 15 仕上げ塗りの適用部位に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

○：適用できる部位 ×：適用できない部位とする。

番号	仕上げ塗りの種類	部位			
		外壁	内壁	天井	床
1.	セルフレベリング材塗り	×	×	×	○
2.	掻き落とし粗面仕上げ	○	○	○	×
3.	せっこうプラスター塗り	○	○	○	×
4.	色モルタル仕上げ	○	○	○	○

問題 16 二層下地通気構法を示す図に関して、最も不適当なものはどれか。



1. アスファルトフェルト 16kg/1 巻
2. ステープル 1019J
3. 波型 1 号ラス
4. 既調合モルタル 16mm

問題 17 現場調合セメントモルタルの塗り工法の塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 1回の塗り厚は、6mmを標準とし、9mmを限度とする。
2. ALC パネル下地の総塗り厚は、15mm程度を上限とする。
3. 仕上げ厚は、天井、庇が12mm以下とし、その他が30mm以下とする。
4. モルタルの総塗り厚が35mmを超える場合は、溶接金網、アンカーピンまたはネットなどを取り付けた上で、モルタルを塗付する。

問題 18 用語の定義に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 硬化不良とはコンクリートが予定の日数を経て、十分に硬化する筈であるのに、全く硬化せず、壁や床の躯体としての性能の硬さに至らないことである。
2. コールドジョイントとはコンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
3. ジャンカとは型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
4. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。

問題 19 施工計画の作成に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 発注者との契約条件、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件等について調査を行う。
2. 施工法や施工手順について品質、原価、工程、安全、環境を総合的に評価し、比較検討を行い、基本計画を作成する。
3. 基本計画に従って、工事費の予算組みを行った後、施工計画及び詳細工程より労務・機械・資材の調達計画を立案する。
4. 施工計画策定にあたっては、あらかじめ発注者の意見を聴取し、設計図書や施工図等を十分理解するなどして、確認の方法や基準を施工計画に盛り込んでおく必要がある。

問題 2 0 仮設備計画に関して、最も不適当なものはどれか。

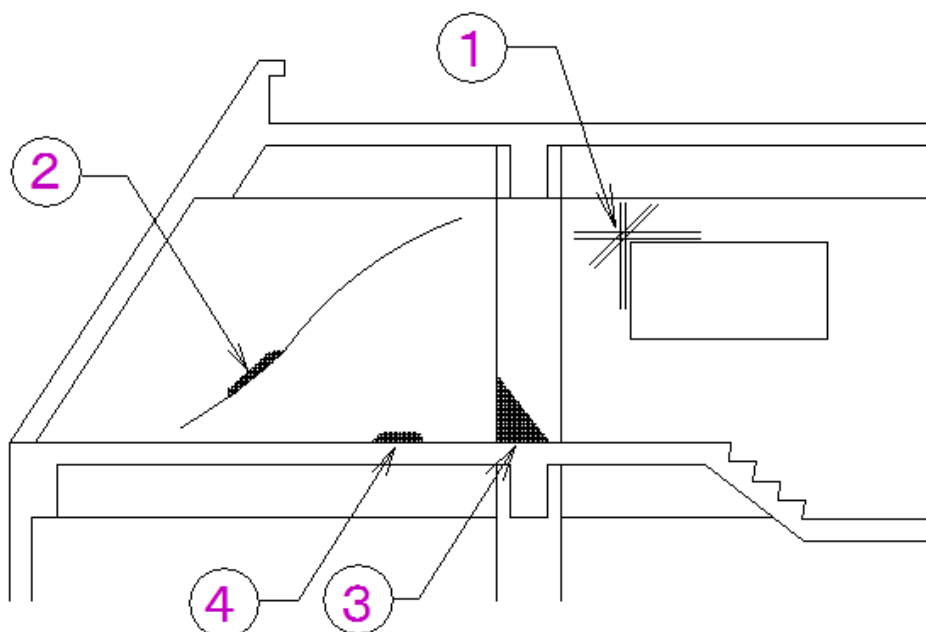
1. 仮設という呼び方につられて、ややもすると、手を抜いたりおろそかになったりしやすく、事故の原因となって、かえって多くの費用が必要となる場合もある。
2. 一般に仮設は本工事と異なり、いかなる場合でも全て施工業者に委ねられる。
3. 仮設は、工事の目的とする建設物ではなく、臨時的なものであって工事完成後、原則として取り除かれるものである。
4. 仮設は使用目的、使用期間に応じてその計画を設計し、作業中の衝撃、振動等を十分考慮に入れた設計荷重で強度計算を行い、また労働安全衛生法に基づいた計画を立てる。

問題 2 1 揚重計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. どのような資材にも対応できる揚重機器を考慮して計画する。
2. 建築及び他業者と揚重の週間工程表を作成し、毎日の打ちあわせの中で再確認する。
3. 揚重機器の効率を考慮して計画する。
4. 梱包材の搬出も考慮して計画する。

問題 2 2 下図のようなコンクリートの打設不良が発生した原因に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 図中②の部分は、打ち継ぎ時間の遅延および打設面での再振動不足により、コールドジョイントおよび豆板の発生を示したものである。
2. 図中③の部分は、柱の下部の型枠内側の滑りが悪く、コンクリートがいきわたらないため、豆板を発生させた。
3. 図中①の部分は、開口部の周りで開口補強筋が配筋されている場合が多く、鉄筋が密になり、コンクリートが流れにくく、充填不足になりやすい。
4. 図中④の部分は、急激な打設により、型枠内の空気の逃げ場所が無くなった。また、打設高さがあるためセメントペーストと骨材が分離し、振動不足で豆板を発生させた。



問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 平成 26 年の死者数は 50 年前の 16% と大幅に減少している。
2. 労働災害の減少した主たる要因は、工事量の減少である。
3. 建設工事全体の死亡災害を事故の型別で見ると、墜落事故によるものが最も多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、雇用期間が短いため継続的な教育・訓練が実施しにくいことが挙げられる。

問題 2 4 各種労働災害防止について、次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所での作業を行う場合、基本的には作業床を設置する。
2. 居ながらリフォーム工事では、電気やガスを止めずに行うので危険である。
3. 解体工事は短期間に終わるので、石綿による健康障害防止対策を考える必要がない。
4. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数）を測定することは有効である。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

1. 作業員の遵守義務として、保護具の着用・使用義務がある。
2. 複数業者が混在する 50 人以上の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
3. 元請業者は、現場で新たに就労する作業員に対し新規入場者教育を行う必要がある。
4. 作業主任者を選任しなければならない作業の中に、つり足場の組立は含まれない。